健康と信頼をお届けする
日清製粉グループ

決算説明会

2012年5月17日

株式会社日清製粉グループ本社

大枝でございます。本日は日清製粉グループ本社の決算説明会にご参加いただきまして誠にありがとうございます。
お手許の資料に基づいてご説明する前に一言お話しさせていただきます。

私は昨年4月に日清製粉グループ本社の社長に就任し、今回が自らの初めての決算となります。

決算内容は経常利益で17億円の減益となり、皆様方に対しまして誠に申し訳なく思っており、また、私自身も大変残念に思っています。

先期の減益は、製粉部門が28億円の減益となったことが主因です。

日清製粉㈱は4月1日付けで役員・社員の人事異動を実施し、私が日清製粉㈱の社長を兼務し、新体制で今年度をスタートしました。

今年度の製粉セグメントの利益は対前年で4億円のプラスを見込んでいます。

小麦粉のシェアアップという最優先課題に継続して取り組み、原資も投入していきますが、その原資を出荷増とコストダウンでカバーしていきます。

2月17日のIR説明会で説明した中期経営計画は、4月からスタートをしております。スタートに前後して、以前から日清製粉の懸案、悲願であった2つの重要施策が決定し、発表でき、目に見える形でいいスタートが切れたと思っております。

第一には、3月にアメリカのミラー・ミリング社を100％買収し、念願のアメリカにおける製粉ビジネスに進出できました。

第二には、5月に福岡の新しい製粉工場の建設に着工しました。完成は来期になりますが、念願の福岡港臨海地区に工場を建設し、 将来の原料の自由化に向けた施策ができたと思っています。

2011年度決算概要

健康と信頼をお届けする 日清製粉グループ

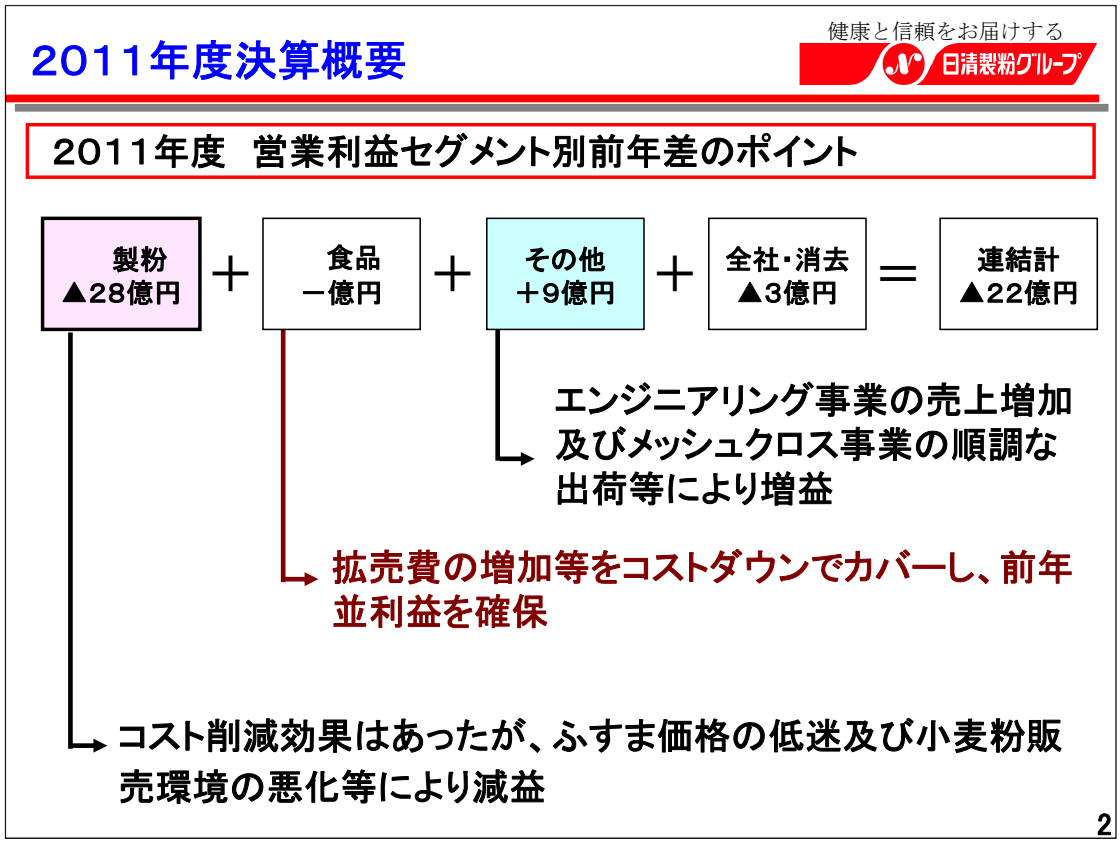
増収減益。各事業においてコスト削減に努めたものの、製粉事業におけるふすま価格の低迷及び小麦粉販売環境の悪化等により減益となった。

	2012／3 実績（百万円）	業績 見通比	前年比
売上高	441,963	▲0.9%	＋4.2%
営業利益	23,113	▲2.1%	▲8.8%
経常利益	26,132	＋0.5%	▲6.1%
当期純利益	13,326	▲4.8%	▲6.1%

1

それではお手許の資料に基づいて説明いたします。

2011年度の決算は増収になりましたが、ふすま価格の低迷、小麦粉販売環境の悪化等により経常利益は約6％の減益となりました。



製粉セグメントの28億円のマイナスが要因で、その他で一部カバーしましたが差し引きでマイナスが残りました。

2012年度見通し

健康と信頼をお届けする 日清製粉グループ

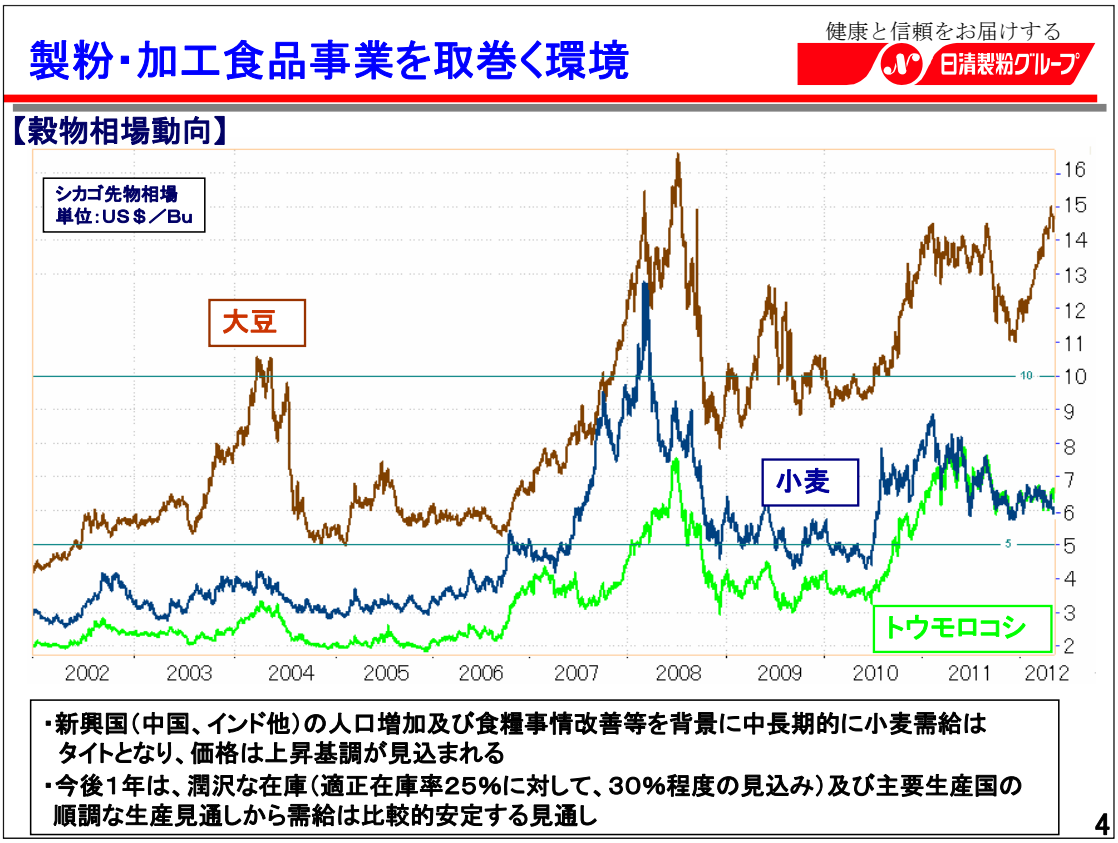
増収増益。各事業における拡販及び本年3月に買収した Miller Milling 社の連結もあり増収。
拡販及びふすま関連損益の改善等により増益。

（百万円）

	2012／3 実績	2013／3 見通し	前年差	前年比
売上高	441,963	459,100	＋17,136	＋3.9%
営業利益	23,113	23,500	＋386	＋1.7%
経常利益	26,132	26,300	＋167	＋0.6%
当期純利益	13,326	14,600	＋1,273	＋9.6%

3

2012年度につきましては、資料にありますとおり、増収増益の見通しを立てております。



つづきまして、小麦及び小麦の制度につきましてポイントのみご説明いたします。

グラフは小麦、大豆、トウモロコシの相場について、直近10年程度の推移を示したものです。

小麦につきましては、長期的には中国・インド等の需要増加が見込まれるため、価格も中長期的に上昇が見込まれます。

ただ、今年一年につきましては在庫が潤沢にあることなどから、価格は安定した推移となるのではないかと見ています。

製粉・加工食品事業を取巻く環境

健康と信頼をお届けする 日清製粉グループ

TPP（環太平洋戦略的経済連携協定）について

日本政府のスタンス

各国との事前協議を通じ情報収集に努め、十分な国民的議論を経た上で、国益の視点に立ってTPP交渉参加についての結論を得る

交渉参加に向けた事前協議の状況

日本が交渉に参加するには、TPP協定交渉参加9カ国全ての同意が必要だが、現時点で米国、豪州、ニュージーランドの3カ国の同意を得られていない

日本政府の情報収集の結果

多くのTPP協定交渉参加国が以下の考え方を支持している
◆基本的に、例外なく、全ての品目をテーブルに載せる対象とすべき
～EPA、FTAでは例外品目の設定等が比較的容易だが、TPPは全品目の自由化が基本
◆90～95%を即時関税撤廃し、残る関税も7年以内に段階的に撤廃すべき

TPPを含む国際貿易交渉における留意点

①国民の主要食糧である小麦、小麦粉の安定確保について十分な検証が必要

②国内に加工産業が残るためには原料と製品の国境措置の整合性を保つことが必要

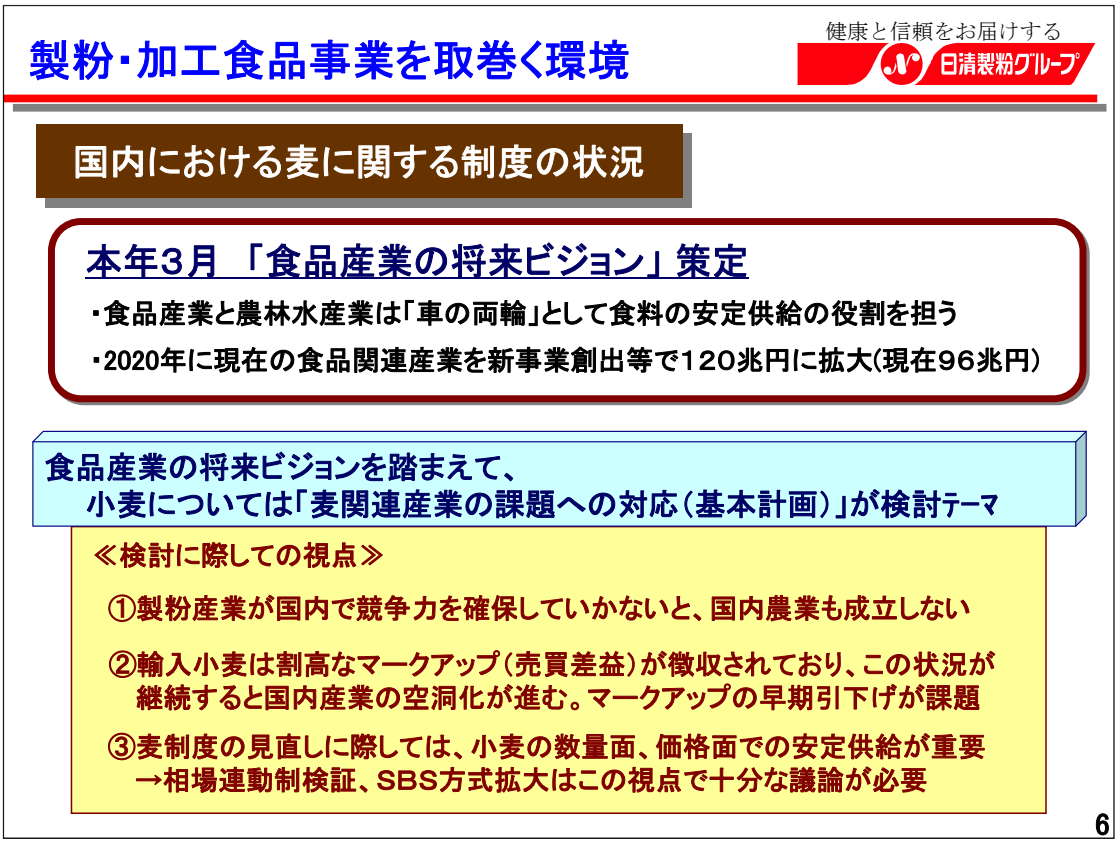
5

つづきまして、TPPの現状についてご説明いたします。

TPPにつきましては、現在日本政府は各国と事前協議を行っておりますが、当社としましての留意すべき点は二つあります。

一つは小麦・小麦粉の安定供給を如何に確保するかということです。

もう一つは、TPPに参加することとなると関税が削減あるいは撤廃になるわけですが、原料である小麦と製品である小麦粉、あるいは小麦粉の製品の関税の整合性が保たれることです。



麦を取り巻く制度につきましては、あまり進展はございませんが、本年3月に「食品産業の将来ビジョン」の最終版が策定されました。

今後、この「食品産業の将来ビジョン」の内容を踏まえて、小麦につきましては「麦関連産業の課題への対応」ということで様々な制度の検討が始まる可能性があると見ております。

当社の視点としまして3つ挙げております。

一つは、製粉業と農業の共存共栄です。

二つめは、自由化を睨んで、マークアップ、一種の関税になりますが、小麦の輸入関税の引下げというテーマです。

三つめは、小麦の数量あるいは価格での安定供給が重要であるということです。

2012年度　事業戦略

～中期経営計画達成に向け本年度取り組む施策～

・トップライン拡大

・海外事業拡大

・コスト競争力強化

つづきまして、2012年度事業戦略についてご説明いたします。

2012年度戦略施策＜製粉＞

健康と信頼をお届けする 日清製粉グループ

製粉事業

小麦粉販売シェアを拡大し圧倒的プレゼンスを確立

- お客様の満足度世界一を目標として、「世界一の製粉会社」を目指す
- お客様との徹底した対話による『価値営業』の推進（お客様の課題解決支援、新製品開発）
- 外食、リテイル市場向け出荷拡大
- 特約店との取組み課題の共有、連携強化

まずは製粉事業です。

製粉事業につきましては、引き続き小麦粉の販売シェアの拡大を最優先テーマとして進めていきます。

併せて、お客様の満足度という観点で世界一の製粉会社を目指していきます。

2012年度戦略施策＜製粉＞

健康と信頼をお届けする 日清製粉グループ

製粉事業

将来の自由化市場で勝ち抜けるローコスト体制の確立

＜福岡新工場建設着工＞



- **最新技術及び当社が蓄積してきたノウハウを活用し、安全・安心且つ常に安定した品質の小麦粉を供給**
- **鳥栖・筑後両工場の生産集約により物流費と固定費を削減し、自由化市場で勝ち抜けるコスト競争力を実現**
- **これにより、関東地区、関西地区に続き、九州地区の構造改善完了**

9

次に福岡新工場についてです。

福岡に新工場を建設し、鳥栖と筑後の既存の工場を閉鎖するという施策です。

九州で新工場が完成しますと、日清製粉において関東地区、関西地区に続き、九州地区においても自由化に向けた構造改善が完了することになります。

2012年度戦略施策＜製粉＞

健康と信頼をお届けする 日清製粉グループ

製粉事業

＜福岡新工場建設着工＞

- ■ 大型本船が接岸可能な須崎埠頭に臨海工場を建設
- ■ 生産能力 550ﾄﾝ／日（2ﾗｲﾝ・原料ベース）
  - ・ 小麦粉ｻｲﾛ収容力 5，000ﾄﾝ
  - ・ 立体自動倉庫収容力 21万袋（5，250ﾄﾝ）
- ■ 投資額（工場建設） 99億円
- ■ 本年5月着工
  2014年2月福岡新工場稼働、鳥栖・筑後両工場閉鎖

福岡新工場の具体的な内容は、生産能力が550トン/日（原料ベース）、投資額は工場建設で約100億円になります。

2014年2月に稼働し、その時点で鳥栖、筑後の両工場を閉鎖する予定です。

2012年度戦略施策＜食品＞

健康と信頼をお届けする 日清製粉グループ

加工食品事業

ｸﾞﾙｰﾌﾟの成長を牽引するべく国内事業基盤を更に強化



日清フーズ冷凍パスタテレビCM

- トップブランド戦略による家庭用製品のシェアアップ
- 販促強化により、成長している冷凍食品市場において、冷凍パスタを中心に冷食ビジネスを拡大
- 中食・惣菜事業における売上拡大



11

つづきまして、加工食品事業です。

加工食品事業につきましては、一つは家庭用製品のシェアアップを狙って、トップブランド戦略を継続していきます。

それから、冷凍パスタを中心とした冷食ビジネスに注力していきます。

そしてもう一つ、中食・惣菜事業にも注力して、売上の拡大を図っていきたいと考えています。

2012年度戦略施策＜食品＞

健康と信頼をお届けする 日清製粉グループ

酵母・バイオ事業　～ベーカリー市場での確固たる地位確立とM＆A等による事業領域拡大

- ビガーマーケットでの販路開拓、更なる深耕
- 安全・安心を強化し、生産能力を倍増した総菜新工場(千葉県富里市)を活用し、総菜の販売拡大
- 長浜研究所の新補酵素棟建設（2012年秋完成予定）⇒生産体制強化

富里総菜新工場



長浜研究所補酵素棟完成予想図



12

次に酵母・バイオ事業です。

ベーカリー市場での確固たる地位確立に加え、ビガーマーケットでの販路開拓を進めていきます。

ビガーマーケットとは、ベーカリー市場以外の市場で麺、菓子といった市場です。

オリエンタル酵母工業は、これまでベーカリー業界向けの販売が中心でしたが、今後はベーカリー以外の市場においても販路を開拓していきたいと思っております。

また、本年2月に千葉県富里に総菜新工場を稼働させています。滋賀県の長浜研究所には今年の秋完成予定で新しい補酵素棟の建設を進めています。

工場も新しくして、安全・安心のレベルを上げると共に新しい需要に対応していく、あるいはコストダウンを図っていきます。

2012年度戦略施策＜食品＞

健康と信頼をお届けする 日清製粉グループ

健康食品事業　～健康食品事業の拡大推進と原薬を中心としたファインケミカル事業の強化

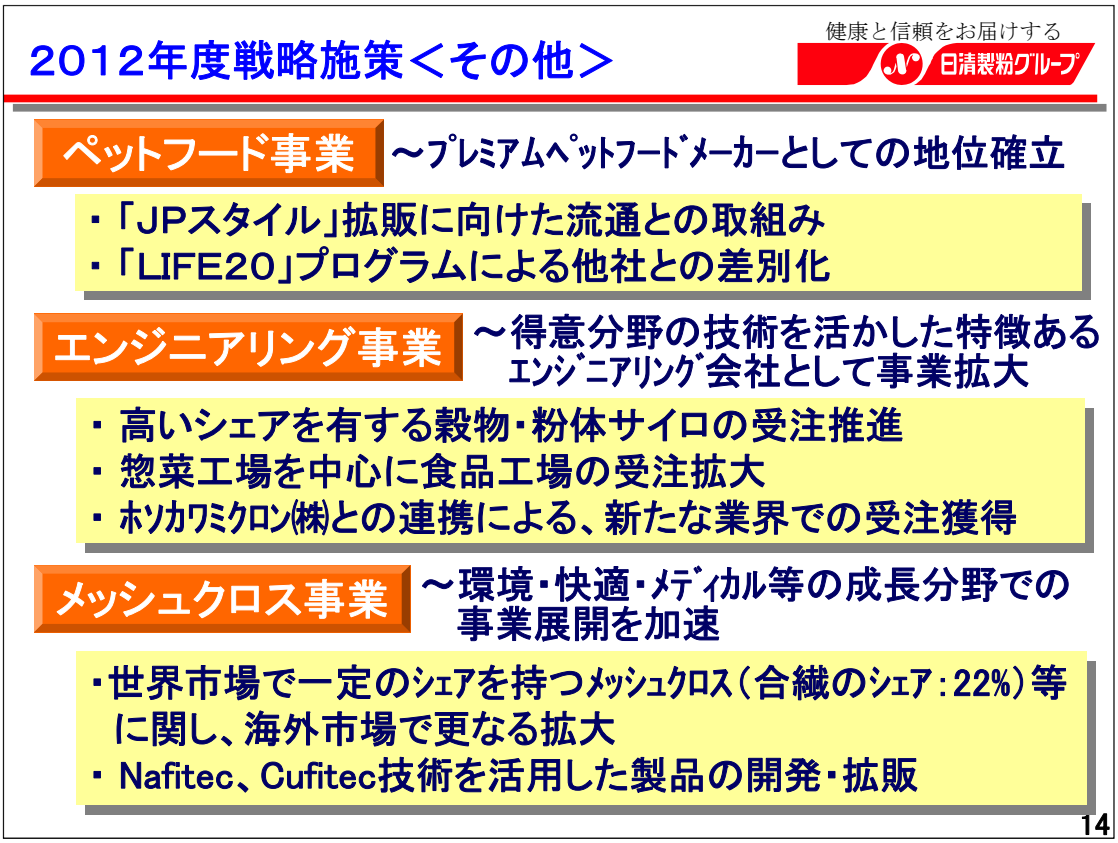
- 健康食品の通販体制強化
- 海外の新規医薬品向け原薬の開発と供給
  ～米国において、承認を間近に控える新薬用原薬の供給体制確立
- 国内外の医薬品メーカーと連携した原薬の拡販

つづきまして、健康食品事業です。

健康食品事業につきましては、健康食品の通販体制強化に加えまして、原薬を中心としたファインケミカル事業を強化していきます。

一つはアメリカにおいて承認を間近に控えております新薬への原薬の供給体制を確立をしていきます。

更に今後、国内外の医薬品メーカーと連携して原薬の拡販を図っていきたいと思っています。



次にその他セグメントについてご説明いたします。

ペットフード事業は、プレミアムペットフードメーカーとしての地位を確立していきます。

エンジニアリング事業は、いくつか主要施策がありますが、特に昨年、業務提携をしたホソカワミクロンとの連携によって新たな業界での受注獲得を目指していきます。

メッシュクロス事業は、海外展開が進んでおり、合成繊維のメッシュクロスで世界市場で22%のシェアを有していますが、 今後も海外市場で更なる拡大を図っていきます。また、Nafitec、Cufitecといった技術を活用し、国内及び海外で開発・販売を進めていきます。

2012年度戦略施策＜海外事業＞

健康と信頼をお届けする 日清製粉グループ

製粉事業

◆本年3月にMiller Milling 社を買収

フレズノ工場（カリフォルニア州）



本社（ミネソタ州 ミネアポリス）



ウィンチェスター工場（バージニア州）



【Miller Milling 社】

- パスタ、ベーカリー製品、トルティーヤの各用途向け小麦粉を主に事業展開している全米9位の規模を有する製粉会社
- 顧客との強固な関係を背景に市場平均を上回る出荷伸長を実現
- 原料調達に優位な立地に2工場を擁しコスト競争力も有す

15

次に海外戦略です。

先ほどお話したミラー・ミリング社の概要を記しておりますが、同社は西海岸と東海岸にそれぞれ工場を持っています。

2012年度戦略施策＜海外事業＞

健康と信頼をお届けする 日清製粉グループ

製粉事業

◆Miller Milling 社買収の目的
2012年度の戦略

1. 買収の目的
- 先進国最大且つ成長市場である米国製粉市場への進出
- 日本の大手に準ずる規模の製粉事業の取得
- 原料小麦が自由に取引されている米国でのノウハウ蓄積

2. 2012年度の戦略
- 新経営体制の確立
- 能力増強の実施（+510ﾄﾝ/日：1,725ﾄﾝ⇒2,235ﾄﾝ）
- 当社の技術等を活用した事業強化、ﾛｼﾞｬｰｽﾞﾌｰｽﾞとのｼﾅｼﾞｰ（技術営業の導入、品質管理向上等）

業績（百万$）	2008年12月期	2009年12月期	2010年12月期	2011年12月期
売上高	239	174	130	223
当期利益	17.0	4.5	3.6	14.8

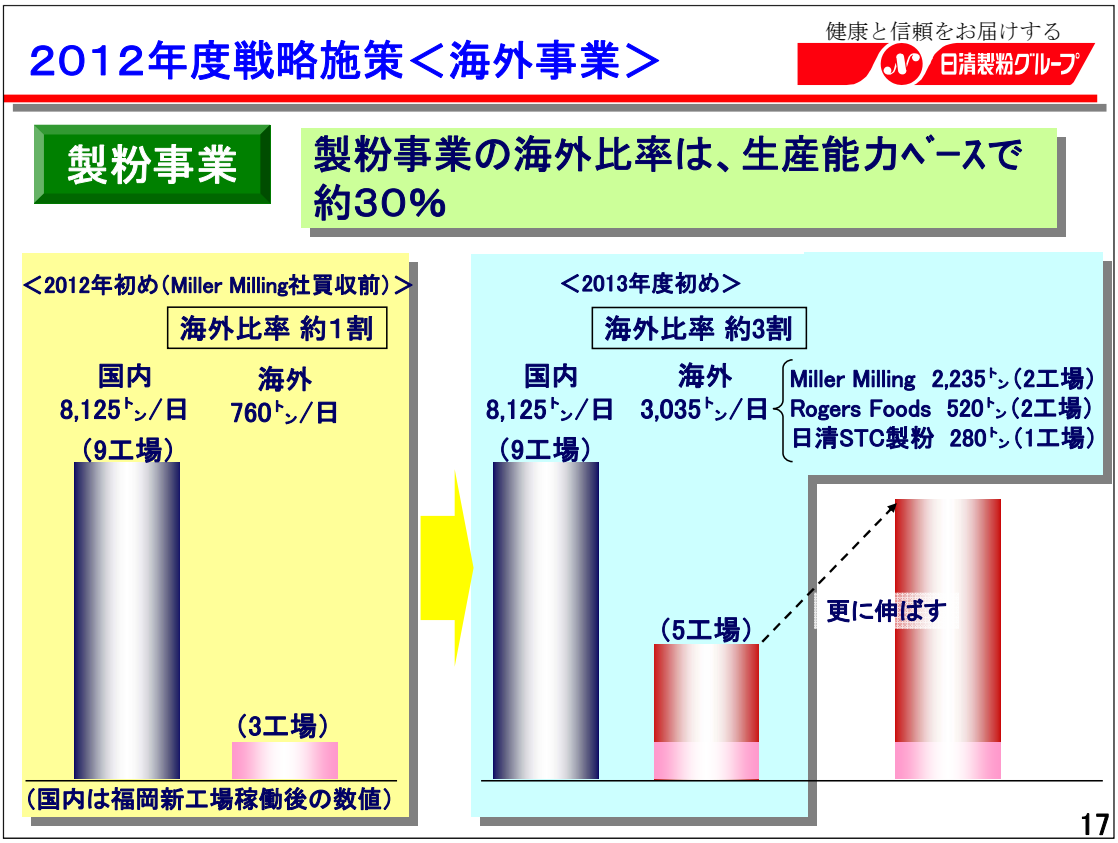
注）2011年12月期はのれん償却を考慮しない当期利益

16

生産能力は、原料ベースで一日当り1，725トンあります。

現在、能力増強の工事を行っており、来年初めには一日当り2，235トンになります。

売上高、利益は、直近の2011年12月期は売上高で約220百万ドル、当期利益で約14百万ドルとなっています。



ミラー・ミリング社を買収した結果、当社の製粉事業の海外比率は生産能力ベースで約30%となります。

現在、国内が9工場で日産約8千トン（福岡新工場稼働後）、海外がカナダのロジャーズ・フーズとタイの日清STC製粉、これにミラー・ミリングを加えて日産約3千トンになります。

工場数は5工場になり、海外比率で約3割まできています。

2012年度戦略施策＜海外事業＞

健康と信頼をお届けする 日清製粉グループ

食品事業

〔加工食品〕
・ミックス事業での現地開発力・営業力の強化

〔酵母・バイオ〕
・本年1月に設立したインド現地法人での診断薬用及び医薬品原体向け原料等の販売強化と新規顧客獲得推進
・昨年12月に設置したシンガポール駐在事務所を中心にアジア食品ビジネスを推進

その他事業

・メッシュクロス事業のインドネシア工場の能力を2倍に増強し、中国及びASEAN域内に販売拡大

18

食品事業の海外戦略につきましても加工食品ではミックスを中心に伸ばしていきます。

また、酵母・バイオにつきましては、昨年12月及び本年始めにシンガポール、インドに拠点を構えており、今後拡大を図っていきます。

メッシュクロスにつきましては、インドネシア工場の能力を倍増して、そこを拠点に拡販を図っていきます。

2012年度戦略施策＜海外事業＞

健康と信頼をお届けする 日清製粉グループ

海外事業

- あらゆる機会を捉えて新規海外事業拡大に最優先で注力
- M&A・ｱﾗｲｱﾝｽをｽﾋﾟｰﾃﾞｨに実行できる社内組織を整備・強化し、必要な人員を重点的に配置
- M&A・ｱﾗｲｱﾝｽの決定に際しては、客観的な調査・分析を十分行った上で、一定のﾘｽｸを積極的に取りに行く覚悟を持って決断

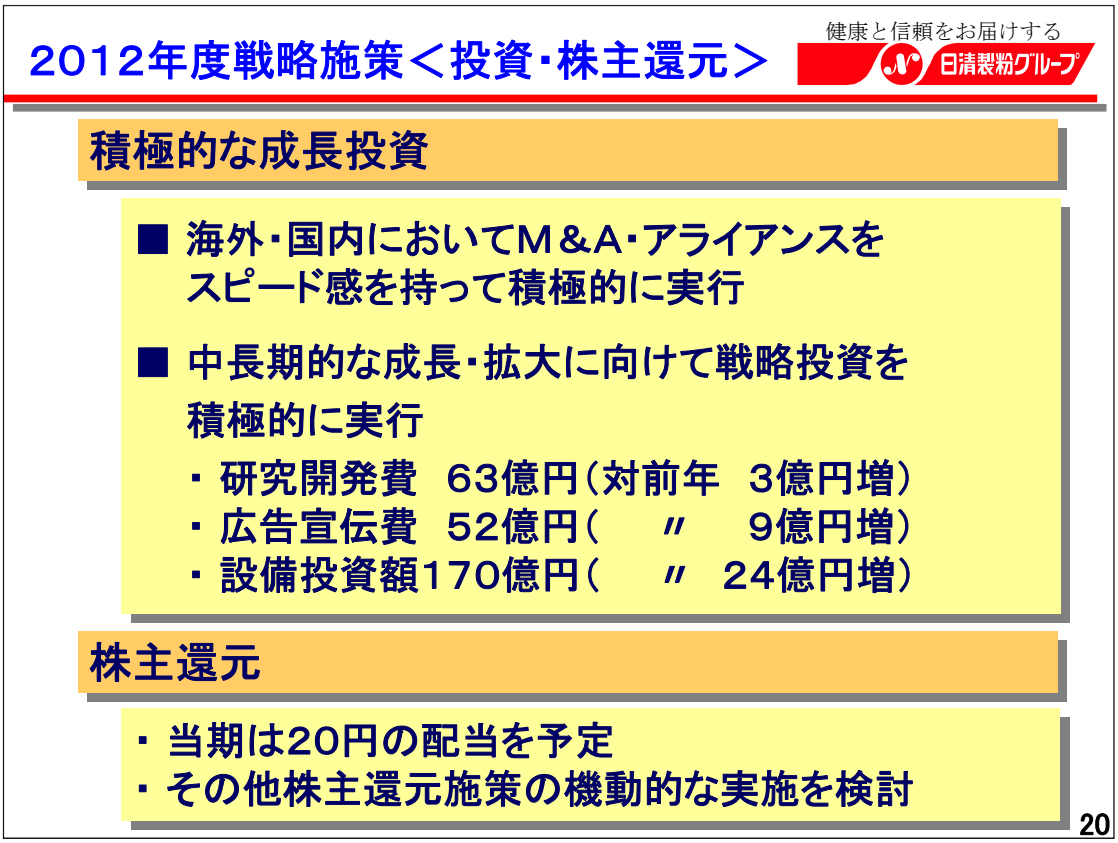
＜対象事業＞
製粉、ミックス、ベーカリー関連ビジネス中心

＜主なターゲットエリア＞
東南アジア、中国、北米とするが、その他の国・エリアも排除せず検討

19

海外事業につきましては、中期経営計画にもありますが、引き続き最優先という位置付けで、Ｍ＆Ａ・アライアンスをスピーディに実行できるよう必要な人員を配置して、社内組織を整備・強化していきます。

各施策の決定に当たっては、一定のリスクを取りに行く覚悟をもって決断していきます。



最後に投資及び株主還元です。

投資につきましては、積極的な成長投資を行っていきます。

海外及び国内においてM＆A・アライアンスをスピード感を持って積極的に実行していきます。

戦略投資については、研究開発費、広告宣伝費、設備投資、いずれについても前年を上回る金額を計画し、積極的に実行していきたいと思います。

株主還元については、当期は20円の配当を予定していますが、その他の株主還元施策も機動的な実施を検討していきます。

以上でご説明を終わらせていただきます。ありがとうございました。

見通しに関する注意事項

当資料に記載されている内容は、種々の前提に基づいたものであり、記載された将来の計画数値、施策の実現を確約したり、保証するものではありません。